

1 学校教育目標

- 1 よく考え知性を磨く 【知性】
- 2 学びあい品性を高める 【品性】
- 3 すすんで体力をつける 【体力】

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	生きる力を身につけ、自立し社会に貢献できる人材を育む学校 ・確かな学力の定着と体力・健康な体を育む学校 ・生徒が安心して楽しく学び、豊かな人間性を育む学校 ・保護者や地域と連携、協力した教育活動を推進し、保護者、地域の信頼に応える学校
○児童・生徒像	夢や目標に向かい、自分で考え判断し、表現、行動できる生徒 ・心豊かでたくましく、社会性を身に付けた生徒 ・意欲的に学習に取り組み、基礎学力を身に付けた生徒 ・自らのよさを発見し、主体的に行動できる生徒(自尊感情や自己肯定感を育む)
○教師像	人権感覚を身に付け、生徒、保護者、地域から信頼される教職員 ・生徒を第一に考え人権感覚、教育的愛情をもち、生徒や保護者に信頼される教職員 ・学習指導要領に則り、意欲的に授業改善に取り組み、わかる授業を実践できる教員 ・自己研鑽に努め、研修や課題解決に積極的に取り組む教職員

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

【学校の現状】

本校は生徒数が578名で17学級からなる大規模な学校であり、教育活動全体においても活気のある学校になっている。生徒たちはにこやかな表情で元気よく挨拶をして、授業や学校行事・生徒会活動・部活動等にも意欲的に取り組んでいる。一方で不登校生徒や特別に支援が必要な生徒の割合は高く、個々の課題に応じた対応が必要とされている。保護者や地域は、学校の教育活動や行事等の取組に大変協力的である。

【前年度の成果と課題】

<成果>○学校行事、宿泊行事、部活動などに役割を果たして楽しむことができた生徒の割合は平均して約92%であり、学校生活等が充実しているという肯定的回答も93.8%だったこと。

○PTA、そして生徒共に校門前での朝の挨拶運動に取り組んだ。

<課題>○学力向上・基礎学力定着のために、生徒が分かる授業を実践するとともに、学ぶ楽しさを感じさせる授業改善が必要である。

○各種行事や日常生活の場で生徒が活躍できる場面を多く設定できるよう工夫していき、魅力ある学校づくりを実践する。

○きめ細やかな不登校対応を推進する。

4 重点的な取組事項						
	内 容	実施期間（年度） R：令和				
		R 5	R 6	R 7	R 8	R 9
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	自尊感情の醸成と不登校生徒への適切な対応	○	○	○	○	○
3	小中連携の推進と授業改善	○	○	○	○	○

5 令和7年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
学習意欲の向上と 確かな学力の定着		区学力調査各教科 65%以上 定着度確認テストで 正答率 各教科 65%以上		区調査の通過率は 56.9% 定着度確認テスト正答率 2年生 56.7% 1年生 59.7%		教科によっては目標を超えている教科もあるが、全体としては目標を達成できなかった。次年度に向けて授業等を中心に学習の定着を図っていく。		△	
B 目標実現に向けた取組み									
新規・継続	アクションプラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 継続	授業の充実	全教科	年間	「足立スタンダード」を活用した授業を行う。授業力向上を目指し、副校長を中心に組織的にOJTに取り組む。	生徒の授業評価 (わかりやすさ・「わかりやすい」「めあての掲示」「やるべきことが明確で意欲的に取り組める」)	肯定的回答 各項目 90%以上	生徒による授業アンケートの肯定的回答はわかりやすい 84.3%(R6)→86.2% めあて 75.0%(R6)→78.2% やるべきこと 84.2%(R6)→85.2%	生徒によるアンケート結果では昨年度より向上してはいるが目標を達成することができなかった。次年度は肯定的回答を90%以上にする。	○

2 継続	ICT 機器 AIドリルの 有効活用	5 教科 中心	年間	授業内で生徒タブレット の活用を図り、個々に応 じた対応を図る。	生徒の授業評 価（学習用タ ブレットなど の ICT 機器を 活用した授 業)	肯定的回答 90%以上	生徒による授業アンケ ートの肯定的回答は タブレット 28.9%(R6)→37.4%	目標値を大きく下回 る結果であった。 教員には結果を示し 活用を図らせる。	●
3 継続	放課後補充 教室	3 教科 中心	年間	学習コンテストや各教科 担任が作成した確認テス ト等を行い、不合格生徒 に放課後 ICT 機器などを 使用して補習を行う。	区調査問題 を活用した、定 着度確認テス ト	定着度確認テ ストで、 正答率各教科 65%以上	12月まで 1年生 36 回 2年生 63 回 3年生 10 回	補習は昨年に比べれ ば計画的に実施でき た。 目標を達成すること はできなかった。	△
4 継続	家庭学習 の定着	全学年	年間	家庭学習ノートを毎日提 出し家庭学習の習慣化を 図る。未提出の生徒は残 して学習、提出させる。 家庭学習ノート提出率 80%以上を達成目標とす る。	担任による提 出状況のチェ ック 生徒アンケート による回答	提出率 平均 90% アンケート 肯定的回答 85%以上	家庭学習に取り組ん でいるの項目で 肯定的回答 79.0%(R6)→82.3% 提出率平均 (%) 1:90 2:95 3:50	少しずつではあるが 教員の努力によって 提出率・肯定的回答 は向上しているの で、今後は自主的に 取り組めるようにし ていきたい。	○
5 新規	学びの環境 整備	全教員	年間	すべての生徒にとって 「分かる」を実感できる教 室環境の整備 また、生徒アンケートを通 して生徒の自発的な活動 を促す。	教室環境チェ ックシート並 びに生徒アン ケート	チェック年 3 回 チェックシート 95%クリア アンケート肯定 的評価 80%	全体平均は掲示物以外 の項目で平均 93.4% で概ね目標値に近いが 掲示物に関しては 48.6%	来年度も継続して取り 組んでいき、最終的に は生徒会や委員会が中 心となって自主的な取 組にしたい。	○

重点的な取組事項－2		自尊感情の醸成と不登校生徒への適切な対応			
A	今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
	教育活動全般を通して生徒の自尊感情 を醸成する。	生徒の自尊感情に関するアンケートの 肯定的評価を平均で 85%以上にする。	アンケートの肯定的評価を平均 77.3%(R6)→77.7%	目標を達成することは できなかった。今後も 継続して取り組んでい き、生徒の自尊感情を 上げていきたい。	△
B 目標実現に向けた取組み					

項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
生徒の自己肯定感を高める	区調査や学校評価アンケートの自己肯定感に関する項目の肯定的回答の生徒の割合 80%以上。	様々な教育活動を通して、自分はもちろん、相手も含めお互いに認め合い受け入れられるようにする。 年間2回自己評価アンケートを実施する。	よいところ 75.9%(R6)→78.9% ほめられる 77.3%(R6)→78.4% 学校生活楽しい 89.5%(R6)→90.3%	目標値を達成することができなかったが、昨年に比べて増加した。来年度も様々な場面で生徒への声掛け等を行わせていく。	○
別室登校の効果的な取組	SSR登校によって、不登校生徒が登校できるようになったか。 不登校生徒を全体の9%以下に減少させる。	週4回、SSR登校を実施する予定。 不登校、不登校気味の生徒に別室登校について情報提供を行い、教室復帰を促す。	毎日開室 正式通室 16名 不登校生徒 54名 9.3%	不登校生徒の割合はSSRの利用等で、昨年に比べ減少したが、目標を達成することはできなかった。今後も教室復帰を目指していきたい。	○
外部諸機関との連携の強化	SC、SSWを交えた校内の教育相談部会を週に1回以上開催し、生徒の状況を学校全体で把握する。	校内委員会を通じて、こども支援センターげんきと連携して、あすテップやチャレンジ学級、カタリバやキッズポート等との連携の強化を図れたか。	校内教育相談部会 週1回実施 不登校・要配慮生徒の情報共有 SSWを中心に外部機関との連携	教育相談部会のぞんざいは学校全体での情報共有を行う場としても有意義である。今後も継続していく。	◎
ボランティア活動の推進	ボランティア活動参加生徒延べ200人以上積極的にボランティアに参加できたとの肯定的割合80%以上	地域行事や避難所運営訓練等へのボランティア生徒を積極的に募り、地域との交流を図らせる。	校内美化ボランティア 全学年 181名 花いっぱいボランティア 1・2学年 68名 肯定的回答 61.3%(R6)→53.4%	肯定的回答の割合が昨年より減少してしまった。協議会だけのボランティアでなく地域にすそ野を広げていきたい。	△

重点的な取組事項－3		小中連携の推進と授業改善			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
学習指導要領や足立スタンダードを基にした授業の実践 3校共課題の書く力、表現力を育む取組や授業の実践 小学校2校との連携の充実と関係強化		授業の実践は教職員の肯定的評価を100% 表現する力の項目の肯定的評価を80%以上 小学校との連携充実は教職員の肯定的評価を90%以上	授業の実践に関して肯定的回答は100%であった。 3校の共通テーマを意識して授業ができたとの肯定的回答は76.3% 情報共有の肯定的回答は37.9%	授業実践についてはとてもよかった。今後もICT機器の利用など共通の縛りを設けて実践していきたい。授業以外での情報共有のテーマは今後検討していく必要がある。	△
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
学習指導要領や足立スタンダードを基にした授業の実践	「生徒の主体的・対話的で深い学び」や「ねらい」「振り返り」の実践ができているか。	小中連携の研究授業での実践 管理職や教科指導専門員の授業観察時における実践	管理職による授業観察は年3回を目指して実施中 教科指導専門員による成果発表授業実施中 小中連携授業は中学校で1回、小学校で1回実施（小学校は2校同日で）	授業実践では共通のテーマを意識して教員は取り組むことができたのはよかった。今後も継続して取り組んでいく。	○
表現する力を付けられる取組の実践	表現力を付けるための取組場面を多く設定できたか。 表現する力を意識した授業実践の教員肯定的回答80%以上	年度当初に小中3校で連携し各教科、領域、行事等において、具体的な取組を決め、書く場面、表現する場面を多く設け、実践させる。	「自分の思いや考え方、願いを自身でまとめ表現し、学び合う生徒の育成」を意識して授業ができたとの肯定的回答は79.3%	小中で共通のテーマ設定をどうしていくべきは今後の課題。	○
教科以外の生活指導や家庭学習等についての話し合いや研修がもてるようにする	教職員の肯定的評価を90%以上	授業参観後に分科会内で教科だけでなく生活指導等の情報交換がもてるようにする。 「ICT機器の活用」「家庭学習の定着」「サマースクール」等についての具体的な実践例の共有や研修の実施。	教科以外で小学校との情報共有が図れていたとの肯定的回答は37.9%	情報共有は学習指導以外では目標には届かなかった。今後は小中で共通の困りごとなど精査してテーマ設定をしていく。	▲

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

重点的な取組事項－1 学力向上アクションプランについて

『課題』

○令和7年度 区学力調査では3科平均の通過率が56.9%で、昨年度より減少し、目標としていた通過率65%以上を大幅に下回り達成することができなかった。

○特に3年生の数学・英語の通過率は30%台で半数以下の生徒が目標値を達成できなかった。

○基礎学力の定着が各教科共にできていないことが伺える。特に数学では計算力、国語では漢字、英語では単語力の学力が低い。

『対策』

○各教科共に授業の中では小テスト等を実施し、繰り返しの取組を図り定着を図っていく。

○家庭学習ノートの提出率を向上させるよう声掛けを行う。さらには内容を吟味し、場合によってはAIドリル等の記録をもって提出に変えるなどの工夫も検討させる。

○放課後補習では数学を中心に組み合わせていたが、計画的に実施ができていたとは言い難いので、次年度は年度初めに実施できる日をリストアップさせて、取り組ませていく。

重点的な取組事項－2 自尊感情の醸成と不登校生徒への適切な対応

○自尊感情の醸成についての取組は学校行事だけでなく、それぞれの教員が学級活動や学年行事等を通して実践できるようになってきている。生徒会を中心とした様々な活動で各種委員会を活性化させ、生徒主体のあいさつ運動等、自発的・自治的な活動ができるようになってきた。次年度も継続して取り組んでいきたい。

○不登校の未然防止のために、別室登校や外部機関との連携やSSRの活用を図ることで目標を達成することができた。今後も目標値を下回るようにしていきたい。

○ボランティア活動には多くの生徒が参加したが、積極的に参加したという肯定的回答は目標値に届くことができなかった。今後は様々なイベント等にもボランティアとして参加できる環境を整えていきたい。

重点的な取組事項－3 小中連携の推進と授業改善

○小中連携の研修は、年間2回(中学校1回、小学校1回)の研究授業、研究協議を実施できた。小中9年間を見通した学びの継続性を前進させ、足立スタンダードを意識した授業だけでなく、授業規律や生活指導、家庭学習にもつなげていき、ギャップの軽減を図っていく。

○ICT機器の児童生徒による使用を意識させた授業の実践を各分科会で実施したので、次年度も継続させていきたい。

(2) 保護者や地域へのメッセージ

保護者や地域の皆様には、日頃から本校へ様々なご尽力をいただき、心から感謝いたしております。今年度の学校行事はおおむね計画通りに実施することができました。本当にありがとうございました。

生徒の健全育成のためには、保護者・地域・学校の連携が何より大切だと考えています。「一人一人の生徒が輝き、笑顔あふれる学校」の実現を目指して、チーム西新井の体制で様々な教育活動に取り組んでまいりますので、今後とも、ご支援、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

(3) その他(学校教育活動全般について)

○学習指導では、「わかりやすい授業」「やるべきことが明確な授業」の実践を目指し、おおむね落ち着いた雰囲気の中で授業が行われているが、「主体的・対話的で深い学び」を実現するためには、日々授業改善に取り組むことが必要である。各学力調査や定期考査等の分析を行うことで生徒のつまづきを確認し、放課後補充教室、サマースクール、家庭学習の取組等で学力の向上を継続して図っていく。一人1台端末の活用を図り、紙媒体等での指導に加え、AIドリル等の活用を図り、アナログとデジタルを融合させて基礎学力の定着を継続して図っていく。

○生活指導では、教員間での共通理解、同一歩調による、力に頼らない指導の徹底を図るとともに、生徒の良さを認め、ボランティア活動や挨拶運動を推進して生徒の活躍の場を設け、自己肯定感を高め、自尊感情の向上を図る取組を行っていく。